

9 研究の成果と課題

今回の研究実践では、「新たな価値を創造する力」の育成に向けて、「好奇心」に焦点を当て、身近な給食をきっかけに、給食を作る人の思いを探究課題として設定した。「拡散的好奇心」「特殊的好奇心」と、「欠落感」、「社会的好奇心」、「ストレス耐性」を視点として、単元を構成した（表1）。

表1 「好奇心」に焦点を当てた単元構成表

探究過程	学習活動	○他教科等との関連 ●リソース	拡散的好奇心 (色々なことを広く知りたい)			特殊的好奇心 (一つの目的を持ってより深く物事を掘り下げたい)		
			欠落感 (自分が知らないことを知ること)	社会的好奇心 (他者の思考や行動を取り入れること)	ストレス耐性 (新たなことを取り入れること)	欠落感 (自分が知らないことを知ること)	社会的好奇心 (他者の思考や行動を取り入れること)	ストレス耐性 (新たなことを取り入れること)
課題の設定	・学校給食に関する情報や思いの共有	○保健の学習との関連	・なぜ給食？ ・なぜこのメニュー？			・なぜ牛乳は毎日出るの？ ・この野菜は何？ ・日本の給食どこも一緒？		
情報の収集と整理・分析	・給食の疑問や発見 ・図書から給食や食べ物についての調査 ・栄養教諭のお話	○国語の学習 ●毎日の給食の写真 ○食の指導 ●栄養教諭	・赤・黄色・緑の栄養が大切だ。 ・どんなことをしているんだろう。 ・こんなに早くから準備している	・赤・黄色・緑のものがあるかな。 ・ふだん作っている人の思いを知りたい	・苦手なものでも食べてみようかな…	・給食は自分たちの体にいいんだ。 ・大変なのは、カレー作りかな？ ・片づけも大変そうだよ…	・野村先生は栄養を大切にしている。 ・毎日大変だと思うな…	
課題の設定	・栄養教諭や調理員さんの思いを予想		・こんなことをしている？ ・こんなには早くから準備している	・分担して、できばき協力しているね！		・こんなに大変な仕事を頑張ったんだ。 ・安全に気を付けているんじゃないかな ・暑くて大変そうだな…		
情報の収集と整理・分析	・図書でわかるところを調査、整理 ・映像からわかることを調査、整理。 ・見字をしてわかることを調査、整理 ・お話を聞いてわかることを調査、整理	○国語の学習 ○社会の学習 ●図書 ●映像記録 ●栄養教諭 ●調理員	・この機械は？これ何してるの？ ・こんなにするの？あれは何？ ・揚げパンも作ってたんだ！ ・人数が少ない時もあったんだ。		・これからもっと関わって、たくさんお話ししたい。お話を言いたい。	・パスタが大変！ ・からあげが大変！ ・計画や分担	・人によって、一番大変なことはちがうけど、どれも大変そうだな… ・食生活や調理員さんのおかげで給食がある。大変だけどがんばっている。	・片付けを楽にするために、きれいなもどそう。できるだけ減らしたい。
まとめ・表現	・学んだことの視点を共有 ・手紙やプログラミングで学びを表現	○国語 ○道徳 ●Scratch				・自分が知らなかったことやおどろいたことをしようかしたい！		・食べることを大切にして、苦手なものを食べたり、家で手伝おう。

情報の収集場面において、扱う情報を意図的に制限し、段階的に収集できるようにしたことにより、子供たちは情報の処理の仕方を考えたり、気付きや疑問をもとに新たな情報の収集の方法を考えたりしていた。拡散的好奇心から特殊的好奇心へ、また欠落感から社会的好奇心、ストレス耐性へとつながる単元構成を試み、他者の思いを知ろうとし、自分の食生活を考えようとする姿が見られた。

一方で、感謝の心は、社会的好奇心との関連があることを前提に実践を試みたが、他者意識（特に他者から見た自己の内面への意識、他者の内面への意識）の視点を取り入れていく必要があると感じた。特に、給食に関する自分たちの準備、食べる、後片付けをするといった自分に関することと、栄養教諭や調理員がする給食の下洗いや準備、調理、配膳、片付けといった他者の作業工程を、ともに「自分にとって」と「給食を作る人にとって」という観点で分類していくと、他者から見た自己や他者の内面の意識の深い理解につながったと考える。

10 次年度への展望

4年生の桐の子タイムでは、「今までの支えてくれた人々と自己の成長、将来」を探究課題とした「未来へのステップ」という単元が位置付けられている。今回の実践をもとに、他者の思考や行動を取り入れるという「社会的好奇心」を視点に、自分から見た自分だけでなく、身近な人や保護者が見た自分を受け入れる子供の姿を目指したい。そして、子供自身が、自分を思い、支えてくれていることを理解しながら、自己を取り巻く人々への思いやりや感謝の心を一層醸成していくことを期待したい。

総合的な学習の時間は、子供が各教科等における見方・考え方を総合的に働かせたり、特定の教科等の視点だけで捉えきれない広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉えたりしながら、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の生き方を考えることを目指している。そのため、「新たな価値を創造する力」を育成する場であるとともに、各教科等で育む「新たな価値を創造する力」の要素を実生活や実社会で発揮していく場となるであろう。好奇心のみならず、「新たな価値を創造する力」の要素を、各教科等との関連を図りながら、系統的に編成していくことが考えられる。

また、「本校で目指す子供の姿」と照らし合わせながら、これまでの各計画について「新たな価値を創造する力」の要素を視点に、カリキュラム・マネジメントの充実を図るよう見直していきたい。